

横浜金沢シーサイド地区 みどりのみらいビジョン



2024年3月31日
横浜金沢グリーンプラットフォーム

目次

はじめに

〇みどりのみらいビジョンとは

横浜金沢グリーンプラットフォーム（事務局：一般社団法人金沢シーサイドあしたタウン）では、本地区のみどりの魅力アップを目指して、住民や行政等関係者の方々と話し合いと活動を続けてきました。その成果をもって、下記のようなねらいのもと、この「金沢シーサイド地区みどりのみらいビジョン」（以降、本ビジョンと呼びます）をとりまとめました。

なお、本ビジョンでは、本地区の公園・緑地を総称して「みどり」と呼びます。

本ビジョンのねらい

- ・ 横浜金沢シーサイド地区のみどり（公園・緑地）を、より市民に開かれ、親しまれ、使われて、憩いや交流の場としていくこと
- ・ 市民・活動団体・企業・行政が理念と目標を共有すること
- ・ 今後の活用の方策と、整備の方向性やアイデアを示すこと

〇横浜金沢シーサイド地区の成り立ち

横浜金沢シーサイド地区（以下、本ビジョンでは本地区と呼びます）は、1965 年（昭和 40 年）に提唱された横浜市の六大事業のひとつ、金沢地先埋立事業によって生み出された地区です。都心部強化事業の対象地区（現在のみなとみらい 21 地区）や市内に多く存在していた工場などを本地区に移転集約し、市内のまちづくりを進めるため、重要な位置づけを持った地区と事業です。

1970 年代中頃から計画的に造成が進められた本地区には、産業団地（LINKAI 横浜金沢地区）、住宅地区（金沢シーサイドタウン地区）ともに、多くの公園、広場などの公共スペースが造られました。また両地区の間には公害の防止や軽減のためベルト状の金沢緑地が設けられました。

造成から 40 年以上が経った今、当初は小さかった緑地や公園の植栽も大きく繁っており、みどり豊かな地区となりました。一方で、老朽化やライフスタイルの変化に伴い、みどりの管理や活用に課題も見られるようになってきました。ここに住み、働く人たちにとって一層魅力的な地区としていくために、みどりも魅力アップを図っていく必要があります。

理念と目標

みんなが楽しみ・憩い・つながる、みどりと人のネットワークづくり

⇒ もっと楽しく魅力的な公園、緑地へ。

⇒ 憩いと価値創造の場へ。

⇒ つながりと交流の場へ。



みどり全般

（１）みどりの一覧とネットワークの見える化・情報発信

私たちは日頃、住まいに身近なみどりに親しんでいます。本地区にはたくさんの緑地や公園があり、それぞれに魅力的なスペースとなっています。時に足を延ばして、あちこちのみどりを楽しめるようにしてきましょう。

本ビジョンでは地域の主なみどりの一覧や場所をまとめていますが、見やすい地図にして地域の皆さんの間で共有を進めていきましょう。おすすめのルートや見どころが載っていれば、その間の散策も楽しめることでしょう。

◆たとえば

- 公園・緑地のマップ・パンフレットを作成、住民や来街者への配布
- サインのガイドラインと整備提案

（２）公園愛好者のネットワークづくり

金沢シーサイドタウン地区のほとんどの都市公園には公園愛護会がありますが、構成は、自治会だったり、グループだったり、ほぼ個人であったりと、活動内容も様々です。また、愛護会以外にも、公園を愛好し活動の場としている団体やグループが存在しています。

公園愛好者がどのような活動をしているかお互いを知ることが、それぞれの今後の運営にも役

立ちます。助け合いや連携的な活動もできることでしょう。

◆たとえば

- 愛護会・愛好団体・愛好者の連絡網（メーリングリスト等）作成
- 愛護会交流会の定期開催



（３）緑地・公園利用のマナーとルールの啓発

せっかくの豊かなみどりも使い方が悪ければ台無しです。緑地へのゴミ投棄、植え込みへのポイ捨てなど、残念な状況も見られます。斜面など危ない場所への踏み込み、自転車でスピードを出した通行は他の利用者を脅かします。

キレイに使う、他の利用者と共存するといった、マナーとルールの啓発に努めましょう。

◆たとえば

- 公園・緑地のマップ・パンフレット（前出）への記載
- 定期的なマナー・ルールの発信
- 注意看板の設置。ただし、自由な利用・活用との兼ね合いから、内容や配置を精査する

金沢緑地

（１）緑地を知る

金沢緑地は「緩衝緑地」として位置づけられ整備をされました。工場地帯と住宅地の間に緑豊かな森を創造し、それによって住宅地の良好な環境づくりに役立てる目的で、1982（昭和 57）年 12 月に横浜市からの依頼により公害防止事業団が整備した緩衝緑地です。

（総面積：15ha、延長：4km、幅員：30m～60m、盛土高：4.5m～6.5m）

全体の植栽としては、金沢区の気候風土にふさわしい樹種を選定しています。特に工場側の斜面については、タブノキ、ヤマモモ、クスノキ、マテバシイなどの耐潮性、耐煙性の強い常緑樹を植えています。また、住宅地側には、それらに加えてケヤキ、コブシ、サクラなどの落葉樹も植えて

います。

緑地の森は成長し、「緩衝」のほかにも様々な機能を発揮しています。ちょっと暗い、こわい、といった意見も聞きます。樹木の構成やなりたち、新しい植物の発生など、金沢緑地の森についてもっと知りましょう。

◆たとえば

- 様子やみどりを確認し、楽しみながら歩く、緑地あるきイベント
- 主な樹木に樹名板を取り付ける

（２）「森」のメリハリをつけた活用

植栽から 40 年以上の年月が経ち、最初は小さかった樹木も現在では見事に生い茂りました。地域の貴重で立派なみどりとして環境向上に役立っています。いまや独自の「森」としての生態系を築いています。

ですが、遊歩道や休憩所があるにも関わらず、樹林内が暗く、中が見通せない状況など、緑地の利用が限られています。せっかくのみどりなのに、こどもが近寄ってはいけないとする風潮もあります。

これは、金沢緑地が、産業団地と住宅地を隔てて公害などから環境を守ることを目的としたものであることも影響していると思われます。しかし時代とともに産業団地の環境水準は向上しています。今日では職住近接や地域活性化の観点から、緑地がむしろ産業団地と住宅地の相互理解と交流の場となるような活用が必要です。

豊かな「森」の保全と利活用のバランスを皆で考えて、守るところと明るく整えるところを組み合わせて、メリハリのある「森」としていきましょう。

◆たとえば

- 遊歩道の一部や滞留場所（休憩スペース）の見通しを良くして、明るく開けた場所を創出する

（３）こどもが楽しみ、親しめる緑地へ

みどりの中で、自分で考え工夫して身体を動かして遊ぶことは、こどもにとってとても良いことです。楽しく過ごした経験や思い出は、金沢緑地だけでなく金沢シーサイドタウンや臨海部への愛着を深め、自分たちの場所や地域を誇らしく思う礎となります。

まず、こどもが安心して思い切り遊べる場所ときっかけを金沢緑地の中に作り、ついでいきましょう。

◆たとえば

- 明るく開けた場所を協働で作ри、維持する
- 常設・定期的な冒険遊び場・プレイパークの開設と運営



（４）エリアを分けて皆で名前を付ける

金沢緑地は大きな森が南北に長く延びているため、全体を見通したり一斉に利活用することは難しい造りです。近くに住んでいる方々のコミュニティも多様です。

また、場所への愛着は、具体的な箇所が、具体的な呼び名を伴って心に浮かぶところから、増すものです。地域の皆で場所や名前を考えることで、金沢緑地への理解と愛着が深まります。

特に、こどもや若者がエリア分けや名前を決めていけるといいですね。小中学校との協働で、場所の名前のサインを皆で作ることも楽しいでしょう。

◆たとえば

- エリア分けと名前を皆で考える。たとえば「〇〇のみち」「〇〇ひろば」など
- 名前のサイン（看板）を皆で作って設置する

（５）新しい使い方の提案と実施

いい場所だとわかっていても、きっかけや目的がないとなかなか足を運ばないものです。歩くことが楽しくなる工夫からイベントやワークショップなどのきっかけづくりまで、新しい使い方を考えて実施していきましょう。

◆たとえば

- 距離の表示版や樹名板の設置。ワークショップ形式での作成と取り付け
- お散歩マップの作成と配布
- 緑地歩きイベント
- 地域で楽しみ整える花壇の設置

（６）住宅地と産業団地がより交流できる緑地へ

住宅地と産業団地を隔てる緑地から、両者がつながり交流する緑地へと意識と実際を変えていきましょう。産業団地にも魅力的な商業施設や、みどり、海を楽しめる場所などがたくさんあります。皆が行きたくなる・使いたくなる工夫と連動して、緑地を活用して住民の皆さんが産業団地を

知る機会を作りましょう。

◆たとえば

- LINKAI 横浜金沢の企業や団体（Aozora Factory 等）、アウトレットパークの店舗などと連携したイベント開催

（７）金沢緑地愛護会設立

緑地にも愛護会を設立することができますが、金沢緑地には存在していません。しかし一部には独自に利用や清掃をしている動きも見られます。エリア分けをして名前を付けると、そこを使いなくなる人たちも増えることでしょう。

愛護会は行政（横浜市南部公園緑地事務所）と地域をつなぐ役割としても重要です。協働して魅力的なみどりとしていくためにも、地域側にパートナーシップを結べる体制が求められています。ここまで述べてきた方向性やアイデアを実現するためにも、取り組みをリードする主体が必要です。愛護会を設立しましょう。

金沢緑地全体は大きいため、全体をひとつの愛護会として各エリアの部会を作ったり、活動範囲を絞って小さい愛護会を複数作ったりといった、ネットワーク型の仕組みが望ましいと思われます。

公園・プレイロット

金沢シーサイドタウン地区の公園・プレイロットについては、「てくてくぱーく ～お外で遊ぼう！並木エリア公園マップ～」として一覧と見どころをまとめました。本ビジョンの別冊としてもご覧いただけます。



（１）公園を知り、愛着を深める

埋め立て地に計画的に作られた金沢区臨海部のみどりは、当時の先進的な設計思想や様々な工夫によって作られています。また、もともと漁場や景勝地であった経緯を踏まえたものとなっています。また、公園にもそれぞれ種別や機能、役割があります。それらを知ること、公園に親しみ愛着を深めることにつながります。

たとえば、金沢シーサイドタウンの公園は、海であった記憶を残すため、漁場や風景にちなんだ名称が付けられています。たとえばイガイ根とは、イガイ（ムール貝）が取れる場所（根）のことだそうです。しかしこのような由来や謂れはだんだん人々の記憶から消えてきています。

そもそも、身近な公園以外にもたくさんある地域の公園や遊べる場所の存在を知らない人も多いことでしょう。このような地域の公園の情報や知識を共有しましょう。

◆たとえば

- 各公園の名称・由来、地域の公園一覧マップなどのサイン設置
- 地域の公園マップの作成と配布

（２）公園の新しい工夫

子どもたちが楽しく遊べる工夫はいつも必要です。また、時代とともに公園の主なユーザーが変わってきています。様々な目的で公園を使いたくなるよう、常に公園のしつらえを考えて、アップデートしていける仕組みを作りましょう。

◆たとえば

- 魅力的な遊具、健康遊具などのニーズを常に考える
- お世話しやすく楽しい花壇や小さな緑を上手に配置する

本ビジョンの実現に向けたステップ

ビジョンを実現するには、段階を踏んで取り組みを進めていくことが必要です。すぐにできること／したいこともあれば、時間をかけて取り組むべきこともあります。

ここで示したアイデアを例としてステップの案を示します。なお、地域住民・企業や団体・行政との協働で進めることが前提です。

まずやってみよう（短期：今後２～３年程度）

- 緑地愛護会の設立
- 緑地・公園マップの作成と配布
- 緑地のエリア分け・名称を決める

- みどりの情報・サイン改善（ガイドライン）提案
ていねいに取り組もう（中・長期：数年から 10 年以内程度）
 - みどりの情報・サイン改善（ガイドライン）実現
 - 産業団地との連携イベント
 - みどりの改善と整備提案の検討と実現に向けた協働

ビジョン策定の経緯と今後

本ビジョンは横浜金沢グリーンプラットフォーム（事務局：一般社団法人金沢シーサイドあしたタウン）が企画し、国土交通省官民連携まちなか再生推進事業に採択されたプロジェクト（2021～2023 年度）によって策定されました。

策定以降、実現に向けた体制作りと取り組みを進めていく予定です。ビジョンの随時見直しも行います。

2021 年度	緑地・公園の調査、緑地活用イベント（集まれ！並木の森）、親と子の居場所づくり（公園）ばあくる等、開催・実施
2022 年度	プレイパーク勉強会、緑地活用アイディア WS、緑地活用イベント（集まれ！並木の森）、親と子の居場所づくり（公園）ばあくる等、開催・実施
2023 年度	緑地活用・ビジョン作成検討会、緑地活用イベント（集まれ！並木の森）、親と子の居場所づくり（公園）ばあくる等、開催・実施

横浜金沢シーサイド地区 みどりのみらいビジョン

2024 年 3 月 31 日

策定：横浜金沢グリーンプラットフォーム

事務局：一般社団法人金沢シーサイドあしたタウン

ホームページ：<http://ashitatown.jp/> メール：ashita.town.office@gmail.com